

シラバス(介護職員初任者研修)

5. 介護におけるコミュニケーション技術

目 的	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解する。
修了時の評価ポイント	
①共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ②家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職として、持つべき視点を列挙できる。 ③言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ④記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。	
指導の視点	
○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。	
内 容	
①介護におけるコミュニケーション ◎介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ●相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、●傾聴、●共感の応答 ◎コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ●言語的コミュニケーションの特徴、●非言語コミュニケーションの特徴 ◎利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ●利用者の思いを把握する、●意欲低下の要因を考える、●利用者の感情に共感する、●家族の心理的理解 ●家族へのいたわりと励まし、●信頼関係の形成、●自分の価値観で家族の意向を判断し、非難することがないようにする、●アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ◎利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ●視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、●失語症に応じたコミュニケーション技術、 ●構音障害に応じたコミュニケーション技術、●認知症に応じたコミュニケーション技術 ②介護におけるチームのコミュニケーション ◎記録における情報の共有化 ●介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、●介護に関する記録の種類、 ●個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)、●ヒヤリハット報告書、●5W1H ◎報 告 ●報告の留意点、●連絡の留意点、●相談の留意点 ◎コミュニケーションを促す環境 ●会議、●情報共有の場、●役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、 ●ケアカンファレンスの重要性	